

単元終盤

(ナレーション)

学習指導要領では、体力や技能の程度、性別や障害の有無などにかかわらず、運動の多様な楽しみ方を社会で実践することができるよう、留意することとされています。このことは、生涯にわたって、豊かなスポーツライフを実践する資質・能力の育成に向けては、運動やスポーツの多様な関わり方を状況に応じて選択し、卒業後も継続して実践していくうえで重要なことです。

(生徒)

チャンスを敵にまわしてしまったことが多かった。

(生徒)

なんか冷静なことが大事だから、あそこでフェイントかけるとかすればよかった。でも、敵がすごく速い。動きが。

(生徒)

あと、これ大事。投げるの誰がいいのか、誰に投げればいいのかが分からない。油断しているとミスしちゃう。

(生徒)

バウンドさせてパスするとかはどうかな。確実だよね。

(ナレーション)

ゲームを振り返りながら、男女で意見を交わすことはより多様な考えに触れ、互いの信頼関係を深め、自己形成へとつなげていくことができます。

(生徒)

前半は守りを固めて、後半にかけてどんどん攻めていこう。

(ナレーション)

性差を超えて、互いに関わることで、スポーツにより参加しやすい環境を作り出し、スポーツを通じた共生社会の実現につなげていくことができます。

(ナレーション)

単元最後のゲームでは、体力や技能の程度、性別や障害の有無などを超えて、みんなでゲームを楽しみ、自己やチームの成長を全員で実感し、共有し、次の新たな学習へとつなげていきます。